

富秋中学校区等まちづくり検討会議（第9回） 議事概要

1. 日 時：令和元年9月30日（月）19：00～20：30

2. 場所：和泉市 人権文化センター 大会議室

3. 出席者：委員 14名
和泉市職員 19名
コンサルタント 3名

4. 議事次第

- (1) 委員の追加について
- (2) まちづくり構想（地域案）について
- (3) 今後の予定

5. 議事概要

■委員の追加について

※以下、特記無き場合委員の発言

- 事務局より委員追加について説明
- 新任委員のより一言挨拶をいただいた。

■まちづくり構想（地域案）について

- 市浦より資料説明 【富秋中学校区等まちづくり構想（地域案）】

・本日資料のまちづくり構想は、あくまで地域案であり、今後地域案を踏まえて行政案が作成されることになっており、そのための意見交換の機会もつくっていかねばと思っています。また、今回まとめたことだけでなく、市営住宅の建替えや小中一貫校（合意形成が進めば）、複合施設などの具体化も検討していかねばいけないと思うので、今後もメンバーを増やしていきながら議論が必要になると思っています。

・これまでの検討会議で話してきたことがうまくまとまっている内容になっているので、個人的には良いと思っているが、内容の最終決定のタイミングはいつになるのか。

⇒事務局として考えているのは、今後住民説明会やアンケートを実施し、まちづくり構想についての意見を取り入れた上で、まとめたものを市へ提出しようと考えている。ただ、今の内容から大きく変わるというわけではなく、今のものを柱に、意見を肉付けしていくようなイメージかと思う。

・構想の内容に書かれている事は立派だと思うが、このまちに住む人をどのようにして集めるかのシカケについて、書かれていないように思う。器だけ出来ても、人が集まらなければ仕方がないと思うので、人口減少を防ぐために、人を集める施策がまちづくりの中で一番重要だと思う。

⇒公共施設の再編した跡地に生まれる「まちの核」に住宅を整備していくことは書いていると思うが、他にどのようなことを書くとよいか（事務局）

⇒今の内容で若い人が来たいと思うか疑問。まちづくりのスタートは、行政によるシカケに期待する所が大きいと思う。

⇒地域案をまとめた後、行政としてのまちづくりの方針を出してもらった上で、地域と共にまちづくりを進めていくことになるかと思う。

⇒以前、民間事業者ヒアリングの報告の中でも、事業者からの声として、いきなりこのまちに住宅をつくっても、それだけでは人は来ないので、子育て世帯にとって魅力となる学校・教育環境や商業施設が近くにできるかどうかによるという話だった。今回のまちづくりでは、魅力的な教育内容の小中一貫校や、みんながワイワイ集まれるような多世代交流施設など、まちのウリをつくる機会もあるので、そのように住宅地の魅力を高めていながら、その上で跡地に住宅が出来れば若い人たちにも来てもらえるのではないか、というストーリーで整理している。(事務局)

- ・若い人に住みたいと思ってもらうためには、教育内容が重要だと思う。教育水準が高い所には、自然と人が集まる。プロジェクトとしては、「学校・教育魅力づくりプロジェクト」として掲げられているが、実際にどのようにして実現していくか、議論を進めるべきだと思う。

⇒最初の検討段階では、地域としても学校をどのようにしていくのか方針が見えていない中で、子育て・教育部会などを重ねていながら、方向性がようやく今見えてきた段階だと思う。具体的な内容については、今後順を追って考えていければ良いと思う。(事務局)

⇒部会でもある程度課題は出てきており、地域が目指す学校についての議論は薄かったので、今後議論していかないといけない。保護者、子どもの今ある不安は今後解消していくべきだと思うが、南松尾はつが野学園の時でも決めていくのに時間がかかったと聞いているので、今後じっくりつめていければと思う。

- ・検討会議委員が33名であるのに対し、本日の出席人数が14名と半分に満たない中で、地域として意見をまとめてしまってもよいのだろうか。また、構想には今あるまちをどのように変えていくか、ということについて丁寧に書かれているが、なぜそうするのか、地域の意見やアンケートの結果など根拠が書かれていないように思う。本来は、地域の意見を聞いて、それを行政が支えて進めていくべきだと思うが、例えば小中一貫校化についても誰が言ってるのか、根拠が書かれていないので分からない。

⇒基本的には、地域からまちをどのようにしたいかという声上がり、それを受けて行政が支援の仕方を考えていくべきだと思っている一方、これまではこのようなことについて幸校区と池上校区が集まって議論するような場がなかった。今回、地域案をタタキとしてつくることができたので、これをきっかけにまちをどうしたいか地域で議論して、それをまた地域案に反映できればと考えている。

また、それぞれの自治会・町会では、それぞれに様々な課題を抱えているが、1つの自治会・町会では解決できない課題をこの場で共有して取り組んで行けたらと考えている。これから30年かけて子ども達へどのようにまちを残していくのかという話にもつながると思うので、まずはこのような議論の場を持たたことは大きなことであった。

- ・伯太4丁目から小学校への通学路は線路を渡らないといけないため、小学1年生などにとっては危険だと思うが、そのような中で安全な通学路をどのようにつくるのか、まずは安全なインフラを先に整備する必要があるのではないか。また、信太山駅の改修計画についても、西側の改札の話だけでなく合わせて東側の駅前開発も一緒に考えて、どのような駅前動線をつくるということも、30年後を見据えるのであれば加味しないといけないと思う。

⇒小中一貫校化についてはまだ部会でも結論は出ておらず、小中一貫校化については別途の会議を持ち、今通っている子ども・保護者、これから通う子ども・保護者のことも考えながら議論の場を設けて検討していきたい。

- ・構想内の「まちの課題」でも記載があるが、高齢化率 40%という推計がある中で、高齢者や障がい者福祉についてはもう少し踏み込んで触れられないか。具体的には、コアプロジェクト④「居場所づくりプロジェクト」の中で、高齢者や障がいのある人への生活サポートや、民間の支援施設によるサポートなど福祉の目線からの言及も必要ではないか。「すこやかプロジェクト」のような、居場所もあるし、高齢者の支援もしてもらえるイメージができる方が良い。高齢者も障がいのある人も住みやすいまちになってほしい。

- ・青少年センターや人権文化センターなどを集約して多世代交流拠点をつくる場所については、ワークショップでは仮に和泉第一団地を敷地として議論はしたと思うが、決定はしていないのではないかな。

⇒住環境コミュニティ部会の議論の中では、和泉第一団地の建替えと合わせて「まちの核」として多世代交流施設をつくるということで、部会の意見としてまとまったと理解している。その他構想に係れている内容についても、基本は各部会で積み重ねてきた議論の内容をまとめたものとなっている。(事務局)

- ・伯太町のシルバーハウジングは入居条件が 65 歳以上だったが、入居から 10 年経って一番若い人が 75 歳という状況になり、ゴミを下までおろすこと出来なくても入居者だけではフォローし合えず、1 人の負担が大きくなってしまい、厳しい状況になってきている。団地についても同じ状況だと思うが、そのような時に地域としてどのようにフォローしていくのか策がないと行き詰まりがみえてくる。

⇒地域福祉・医療機能については、シカケ 1 の⑥で触れてはいるが、これまで子育て世帯や若者を増やす議論が多かったのに対して、確かに高齢者や障がい者の福祉の議論は少なかったように思う。市営住宅は高齢化に伴い、しんどい人を支える人もまたしんどい、という状況になってしまっているため、市営住宅は建替えるとしても、地域の若い人に福祉の取組みにどのようにして関わってもらえるか、高齢者などを支える仕組みについてもっと考えていきたい。また、幸校区まちづくり推進会議を行った中では、小中一貫校化については前向きな議論が出ていたが、複合施設については和泉第一団地跡地なのか、幸小学校跡地なのか、という議論はあった。

- ・確かに富秋中学校区で見た時に、和泉第一団地の敷地はちょうど中間なので良いとは思っている。ただ、和泉第一団地に複合施設が出来て、ここだけが発展するのではなく、例えば通学路の整備や、小中一貫校と多世代交流施設との間の遊歩道整備などの取組みを、あわせてやっていくとまち全体のために良いのではないかな。場所については 13 号線（府道 30 号）に寄せていく方が良いと思う。

- ・通学路は、単に距離の遠さの問題だけではない。例えば夜暗く危険なので道を明るくすることや、自転車道を整備することなど安全対策もできるかどうかだと思う。通学路の安全性が確保されていれば良いのだが。

- ・多世代交流拠点に関連するが、現在実施している居場所づくりイベントなどを実施する際にも場所が必要、と議論している。そのような中で近くにあるあさひ保育園跡地の扱いが触れられていない。現在どのようにしているのか。

⇒あさひ保育園と幸幼稚園の跡地については、元々市としては行政目的を失った土地ということで売却する方向で検討をしていたが、今回の富秋中学校区等まちづくり検討会議での議論に合わせて方向性を決めていただくという話は既にさせていただいている。具体的な跡地活用の話がまだできていないので、このままであれば、売却の際の条件として「まちづくりに資する」という条件で売却する流れになるかと思う。(市)

⇒元々が子どもの施設ということもあるので、地元の子どものために活用できる場にしてほしい。

- 多世代交流拠点の場所については気になっている。二つの校区の中心でもあるし、富秋中学校と近いという利点もあるが、それでよいのか。王子第一団地の建替えなど他にもあると思うし、今後地元説明をする中で意見も出てくるのではないかと思う。

- 和泉診療所は地域医療としても大事なものなので、複合拠点には入れず現在のままとしているが、北部総合福祉会館について、複合拠点に入れるのはどうかと思っている。北部総合福祉会館については、そのままの形で診療所と連携していきながら活かしていく方向が望ましい。ただ建物の建替えなど今後のあり方については地元協議も必要だし、行政としてもどうするか考えておいてほしい。地域案としては、北部総合福祉会館を複合施設に入れるということについては反対。

- 幸校区の中から、もう少し議論する余地はないか、と意見をもらっている。ただ終わりが決まっているので、スケジュール的に可能かどうか調整したい。

⇒「まちの核」についての意見はある程度意見が出てきたので、役員会としても議論をもう少ししたいという意見。ただ時間が決まっているのかもしれないが。

■今後の予定について

- 市浦より資料説明 【今後の予定】

- 10/7 に次回検討会議を予定している。

■その他

- 居場所づくりイベントについて説明

- 検討会議が主体となつてのイベントだと思っているので、実施にあたってこの場での承認が必要だと考えている。当日は駐車場の整理や受付などの協力が必要になると思うので、ご協力をお願いしたい。

- バザーの物品の受付はどこでやるのか。また、住民にも宣伝する必要があると思う。

⇒この場での承認をもらってから具体的に相談しようと考えていた。

⇒和泉第一団地の集会所を使ってもらって構わない。

- チラシの配布は学校からだけか。バザーについてのチラシも配布されるのか。

⇒学校だけでなく、地域でも配布する予定。小学校、幼稚園など合わせて 2,000 部程度配布予定で考えている。(事務局)

以上